

用語解説 刑事施設における性犯罪再犯防止指導

刑事施設では、性犯罪受刑者に対する再犯防止施策の一つとして、性犯罪再犯防止指導を行っています。この指導は、「刑事収容施設及び被収容者等の処遇に関する法律」で定める改善指導の一つであり、受刑者に性犯罪につながる自身の問題性を認識させ、その改善を図るとともに、再犯しないための具体的な方法を身に付けさせることを目的として、認知行動療法の理論をベースに、グループワークの手法を用いて指導を行っています。

【指導の対象者】

性犯罪の要因となる認知の偏りや自己統制力の不足等の問題性が認められる者を対象としており、具体的には、刑事施設に入所した全受刑者を対象としたスクリーニング及び受刑者の再犯リスクや性犯罪につながる問題性等を判定する性犯罪者調査の結果に基づいて対象者を選定しています。

【指導担当者】

刑事施設の職員である教育専門官、調査専門官、刑務官等により指導を行っています。指導担当者は、矯正研修所で実施される専門研修や、各施設で招へいする大学教員、精神科医等の外部専門家からなるスーパーバイザーの助言・指導等により、指導に必要な知識及び技能の研さんを積んでいます。

【指導の方法・内容】

認知行動療法の理論をベースとして以下の方法により指導を行っています。

- 心理教育
性犯罪に及んだ原因を考えさせ、再犯防止のために必要な考え方や行動などの対処方法を身に付けさせる。
- グループワーク
2名の指導担当者と8名の受講者を標準として特定のテーマについて話し合う。
- 宿題

専用のテキストやワークブックを用いて自習を行わせ、継続して課題に取り組みさせる。

- 個別面接
指導内容のフォローアップ等のため、個別対応を補助的に実施する。

指導のプログラムは、性犯罪者調査の結果に基づき、個々の受刑者の再犯リスクの高さ及び性犯罪につながる問題性の大きさに応じ、高密度(全65回、8か月)、中密度(全54回、6か月)、低密度(全17回、3か月)のいずれかを受講させており、そのカリキュラムは表のとおりとなっています。

このように、受刑者の再犯リスク等に応じたプログラムの実施を基本としつつ、知的能力に制約のある受刑者を対象とした調整プログラム(全75～90回、10か月)や、刑期が短いため、通常の密度のプログラムの指導期間を確保できない受刑者向けの集中プログラム(全30回、4か月)も整備し、多様な受刑者に対応することとしています。

【指導の効果】

刑事施設を出所した性犯罪受刑者2,147名について、性犯罪再犯防止指導の受講の有無とそれぞれの出所後3年間の再犯率(推定値)を統計的に分析し、指導の効果を検証しています。

その結果、指導を受講した者の再犯率は21.9%、指導を受講していない者の再犯率は29.6%であり、性犯罪再犯防止指導は一定の再犯抑止効果を有していると考えられます。

現在は、再犯抑止効果をより大きくするための指導体制やプログラムの充実化を課題とし、個々の受刑者の問題性に応じた効果的な指導を実施できるよう職員の育成等について重点的に取り組んでいます。

法務省矯正局成人矯正課

性犯罪再犯防止指導カリキュラム

項目	方法	指導内容	高密度	中密度	低密度
オリエンテーション	講義	・指導の構造、実施目的について理解させる。 ・性犯罪につながる問題性を助長するおそれがある行動について説明し、自己規制するよう方向付ける。 ・対象者の不安の軽減を図る。			
準備プログラム	グループワーク	・受講の心構えを養い、参加の動機付けを高めさせる。	必修	必修	—
本科プログラム					
第1科 自己統制	グループワーク、 個別課題	・事件につながった要因について幅広く検討し、特定させる。 ・事件につながった要因に対処するための介入計画(自己統制計画)を作成させる。 ・効果的な介入に必要なスキルを身に付けさせる。	必修	必修	必修 (凝縮版)
第2科 認知の歪みと変容 方法	グループワーク、 個別課題	・認知が行動に与える影響について理解させる。 ・偏った認知を修正し、適応的な思考スタイルを身に付けさせる。 ・認知の再構成の過程を自己統制計画に組み込ませる。	必修	選択	—
第3科 対人関係と親密性	グループワーク、 個別課題	・望ましい対人関係について理解させる。 ・対人関係に係る本人の問題性を改善させ、必要なスキルを身に付けさせる。	必修	選択	—
第4科 感情統制	グループワーク、 個別課題	・感情が行動に与える影響について理解させる。 ・感情統制の機制を理解させ、必要なスキルを身に付けさせる。	必修	選択	—
第5科 共感と被害者理解	グループワーク、 個別課題	・他者への共感性を高めさせる。 ・共感性の出現を促す。	必修	選択	—
メンテナンス プログラム	グループワーク、 個別課題	・知識やスキルを復習させ、再犯しない生活を続ける決意を再確認させる。 ・作成した自己統制計画の見直しをさせる。 ・社会内処遇への円滑な導入を図る。			